




<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>座間市市民協働課 平成 25.4.30 受付 第 号</p> </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p>相互提案型協働事業実施報告書</p> <p style="text-align: right;">平成25年 3月 31日</p> <p>(宛先) 座間市長</p> </div>	
<p>団体 住所 東京都世田谷区北烏山3-13-13-406</p> <p>名称 回想法プランニング座間</p> <p>代表者氏名 本間 久子 </p> <p>市 担当課 介護保険課長</p> <p>所属長 嶋 崎  福祉長寿課長</p> <p style="text-align: right;">高橋 一 丞 </p>	
<p>次のとおり報告します。</p>	
1 事業名	回想法を利用した介護予防推進及び、地域ボランティア育成事業
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	平成23年度選考（平成24年度実施）
4 報告期間	平成24年4月1日から平成25年3月31日まで
5 事業費	382,000円（内座間市支出分 334,600円）
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	<p>高齢化の進展に伴い、一人暮らしや認知症の高齢者を地域で支える仕組みづくりの必要性が高まっている。</p> <p>回想法は、懐かしい昔を思い出し語り合うことにより、脳を活性化させ、楽しく生きる力へとつながり、介護予防に有効とされている。</p> <p>そこで、前述の課題解決の一助となることを目的として、回想法の実践者を育成し、回想法を行うお話サロンを開設した。団塊の世代を中心に地域活動に意欲のある方を回想法ボランティアとして育成することは、彼らの地域デビューを可能にし、生きがいづくりにもつながる。</p> <p>具体的には、まず、回想法の普啓発のための基礎講座と、実践者育成のための入門講座を開催した。どちらも申込開始早々に定員となるほど関心が高く、受講生の多数が回想法ボランティアとなることを希望された。</p> <p>次に、広野台とさがみ野で、各8回のお話サロンを開催した。住み慣れた地域で気軽に参加できることから、参加した高齢者には好評だった。また、次年度は、今年度育成したボランティアが運営の中心となって、お話サロンを継続することになった。</p>
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	回想法を利用した介護予防推進及び、地域ボランティア育成事業
-----	-------------------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	ボランティアが多数育ち、サロンも2か所開設でき、さらに参加した高齢者に喜んでいただけたので、目的は十二分達成できた。	左記の通り、今年度も引続き2箇所のサロンを自主運営できていることから、目的は達成できた。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・両講座ともに申込開始早々に定員となり、他県他市からの受講希望もあった。受講者へのアンケートより、講座をとおして「地域で高齢者を支え合う」理解を深めることができ、サロンの開設希望が多いこともわかった。 ・地域の方の協力により、広野台とさがみ野にお話サロンを開設できた。 ・受講者の約半数が回想法ボランティアとなることを希望し、お話サロンの運営にあたり意欲的に取り組まれた。次年度は、今年度育成したボランティアが運営の中心となって、お話サロンを継続開催することになった。 ・自治会や地区社協から関心を寄せていただいたり、埼玉県上尾市高齢者介護課や川崎市グループホームなど、市外からの問い合わせもいただいた。Eテレや高齢者住宅新聞などのマスメディアでも紹介された。 	地域の地区社協に協力を頂いて、今年度もサロンを引続き運営していくこと、及び、参加者が友人を誘ってサロンに参加するなど交流ができており、良い効果を生んでいると考える。

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の事業である基礎講座が5月だったこともあり、事前に担当課と十分な話し合いができなかった。 ・事業開始にあたって、市民協働課に担当課との意識のすり合わせを支援していただけるとありがたかった。 	事前の話し合いは十分出来なかったが、事業開始して以降、地域で交流する機会を持つことで互いに見守り支えあう、という体制づくりを目的とし、事業を進めるといふ共有認識をもつことができた。

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が進行中、スケジュールについて見直しを行う事が出来た。お話しサロン開設前に回想法ボランティアへの研修が不十分と思われ、急遽、打ち合わせ会を開催することになったが、担当課にはすぐに会場手配等を含め変更を了解いただき、大変スムーズに運んだ。 	事務協力が円滑に出来、市として役割を果たすことができた。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・どこまで相談できるのか、それすらよくわからない状態が始まった。 ・事業全般にわたって、団体側の考えについて依頼やお伺いをたて、担当課はそれを「できる」「できない」の判断をするというやりとりが多かった。 	市としても初めてのことであり、団体側の考えを実施するうえで少しでも実現できるように、担当課で打ち合わせを重ね協議した。
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課に打ち合わせ等への出席を依頼しても、多忙を理由に出席いただけなかったのが残念だった。特に、事業中盤、それまでの振り返りと今後について、団体、担当2課で話し合う機会を設けて欲しいと依頼したが、回答がなかったことは残念だった。少時間でも協議のできる体制が欲しかった。 ・講座参加者へのアンケート結果に対して感想を依頼したが、これについても無回答であったが、担当課の意見がほしかった。 	<p>中間報告に関しては、団体との打合せ後に協働課より提出を求められたアンケートをもって代えるということでした承りただいたと認識していた。</p> <p>質問や依頼に対して、2課で対応していることから即答が出来ず、回答を待たせてしまった。</p> <p>アンケート結果への感想について、担当に依頼された認識がなかった。</p>

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎講座・入門講座 <ul style="list-style-type: none"> ・内容設計（テキスト作成含）、講師の招致、ポスター/チラシの作成、回想法ボランティアの養成。 2. お話しサロン <ul style="list-style-type: none"> ・事前準備：ポスター/チラシの作成および配布、プログラム作成、話題を引き出す「懐かしい道具」準備。 ・開催中：自立したサロン運営を目指して実践的にボランティアを育成。 	<p>(市の役割)</p> <p>事業の広報（紙面に載せる、チラシ・ポスター等配布依頼など）、受講者・サロン参加者の募集と受付、会場確保</p>

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。 ・適正であった。	適正であった。
実施結果	設定した役割分担を果すことができましたか。 ・団体としては、概ね役割を果たした。 ・講座の会場確保や申込受付を担当課にさせていただいたが、人数にあった会場でなく、管理者より注意を受けた。団体としては、できることをやっていたので、どうにもできず困惑した。	講座受付においては早々に定員に達したが、キャンセル待ちの枠を設けるなど対応し、役割を果たせた。会場確保において、打合せ不足により団体側の人数を考慮できなかった。以降、十分気をつけたい。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。 ・講座申込者が団体単独で開催していたときより多かった。 ・入門講座では、担当2課の課長のご挨拶を頂き市民の信頼が増した。また、講座に担当職員に参加いただき回想法に対して理解を深めて頂けた。 ・お話サロンの会場として、自治会が集会場等を利用する事を許可していただき、会場費等に関しても配慮があった。 ・市内外から多数反響があり、座間市、団体両方の知名度向上につながった。	回想法という極めて専門的な知識を要する内容であるため、市単独で実施することは不可能であった。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどの様な形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	(団体の考え) ・多方面から高い関心を得たので、お話サロンの増設および定着化を図りたい。高齢者が気軽に通えるようにするには「小さなお話サロン」を多数展開する必要があると考える。 ・担当課以外にも、社協・自治会・民生委員・包括支援センター等とも連携することで、サロンを高齢者への多角的な支援のきっかけとしたい。 ・開設したサロンは、将来的に育成したボランティアが自立して運営できるように支援していきたい。	(市の考え) 認知症に関する市民の関心が高まっており、当事業にも多くの関心が寄せられた。今後は、サロンの参加者が増え、地域で交流が広がることを期待する。 回想法を利用した介護予防について、認知症等の方への予防等の効果と判断について、検討（効果をどのように測定するか等）が必要と考える。